

令和2年度（2020年度）第3回

八王子市総合教育会議議事録

日 時 令和3年（2021年）2月22日（月）
場 所 事務棟8階801会議室

第3回総合教育会議次第

1. 日 時 令和3年(2021年)2月22日(月)
2. 場 所 事務棟8階801会議室
3. 議 題
 - (1) 令和3年度(2021年度)当初予算(案)における教育・子育て等関連事業について
 - (2) 幼児教育・保育センターについて
 - (3) 郷土資料館仮展示場(日本遺産センター)について

八王子市総合教育会議

構成員(5名)

| | | |
|----------------|--|---------|
| 八王子市長 | | 石 森 孝 志 |
| 八王子市教育委員会 教育長 | | 安 間 英 潮 |
| 八王子市教育委員会 教育委員 | | 柴 田 彩千子 |
| 八王子市教育委員会 教育委員 | | 伊 東 哲 |
| 八王子市教育委員会 教育委員 | | 川 島 弘 嗣 |

説明員

| | | |
|-------------|--|---------|
| 総合経営部長 | | 植 原 康 浩 |
| 財 務 部 長 | | 立 花 等 |
| 子ども家庭部長 | | 小 俣 勇 人 |
| 学 校 教 育 部 長 | | 設 樂 恵 |
| 学校教育部指導担当部長 | | 斉 藤 郁 央 |
| 生涯学習スポーツ部長 | | 音 村 昭 人 |

事務局

| | | |
|---------------|--|---------|
| 総合経営部若者政策担当課長 | | 小 俣 英 一 |
| 学校教育部学校教育政策課長 | | 橋 本 盛 重 |

【午後2時00分開会】

○植原総合経営部長　それでは、定刻になりましたので、只今より、令和2年度第3回八王子市総合教育会議を開催いたします。本日笠原委員からご欠席の連絡を受けております。市長および教育長のほか2名以上の教育委員の出席がございますので、八王子市総合教育会議運営要綱第3条第1項の規定に基づき、本日の会議が成立いたしますことを確認させていただきました。

○植原総合経営部長　まず、初めに市長から挨拶をいただきます。市長、よろしく申し上げます。

○石森市長　皆様、こんにちは。令和2年度、3回目の総合教育会議になりますが、教育委員会定例会に引き続いて皆様方にはご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

ご案内のように新型コロナウイルス感染症、現在、緊急事態宣言下でございまして、市民の皆様には不要不急の外出自粛、あるいは飲食業の方には夜8時までの営業時間の短縮等さまざまな御協力をいただきながら、市民一丸となって感染拡大防止対策を行っているところでございます。できるだけ早く終息するよう、願っているところでございます。そのような中、先日初めての催しとなる「高校生によるまちづくり提案発表会」をリモート形式で行いました。市内の都立高校4校の皆様に参加していただき、八王子のまちづくりの課題解決に向けて学習活動の発表を行っていただきました。高校生ならではの斬新な発想を聴かせてもらいましたけれども、ぜひ若い世代の皆様により八王子に興味を持っていただきながら、まちづくりに対しても関心を持っていただきたいと願っているところでございます。

さて、間もなく年度末ということでございまして、明後日の24日から市議会の第1回定例会が始まります。2月補正、そしてまた新年度の予算案を審議していただけるということでもあります。新年度予算の特徴としては、まずは新型コロナウイルス感染症対策。

これは4月から本格的にワクチン接種が始まるようになりますが、市民の皆様が順調に接種できるように取り組んでいきたいと思っております。

同時に地域医療体制はかなり疲弊しているということでございますので、これについてもしっかりと充実を図っていききたいと思っております。子どもたちに対しては教育環境の整備をしっかりと行いたいと思っております。また、八王子は数多くの大型プロジェクトを抱えております。例えば、南口の集いの拠点整備。これも土地の買収から始まって、いよいよ

具体化してまいります。さまざまな大型プロジェクトを着実に前進していきたいと、そのように考えているところでございます。

この後、財務部長から教育・子育て関連の予算について説明をしてもらいますけれども、ぜひ委員の皆様には引き続き本市の教育行政にお力添えをいただきますようお願い申しあげて、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

続きまして、教育長、よろしくお願いいたします。

○安間教育長　令和2年度も残すところ1か月少しということになりました。本年度は市長からもお話がありましたとおり、世界中が新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でありました。終息はまだ見えず、学校や図書館も感染防止の取組がこれからも続いていくのだろうと覚悟をしているところでございます。教育委員会の事業につきましては、市長には御理解と絶大なる御支援をいただきましたことを改めてこの場をお借りしてお礼を申しあげます。

このようなコロナ禍の中、今年の成人式はリモート開催でありました。これからの八王子の時代を担う若者たちの門出を盛大にお祝いができなかったことは本当に残念でなりません。しかし、成人式を担当する生涯学習スポーツ部は頑張って、急遽フォトスポットを設置しました。

また、全学校では、その学校の卒業生たちに向けてホームページの中で新成人になられた人たちをお祝いするメッセージを載せてもらうなど、さまざまな取組を行って大人の姿勢を見せることができたのではないかなと思います。これからも教育という機能を使いながら、八王子の子どもたちの未来を応援していくことに全力を尽くしてまいりたいと考えております。

今後も協議、調整の場としてこの総合教育会議を通じまして、より一層、市長と教育委員会との連携を深めて、今申しあげたような八王子市の教育のさらなる充実・運営に努め、そのためには教育委員5人が一丸となって努力をしてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

それでは、まず資料の確認をさせていただきます。本日の資料は委員の皆様はお手元のタブレットで御覧いただきます。画面にはPDFファイルで本日の次第を示しております。また、画面の上部に内容を切り替えるタブがあります。左から次第、資料1、資料2、

資料3、そして座席表と運営要綱などがタブとして表示されています。

なお、本日も前回に引き続きまして、感染拡大防止対策として説明する委員を最小限とさせていただきます。御了承いただければと思います。

続きまして本日の署名委員を選任させていただきます。構成員名簿の1番、市長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

では、早速、本日の議題に入ります。

協議・調整事項の1、「令和3年度 当初予算（案）における教育・子育て等関連事業について」です。タブレットの上のところ、資料1をタッチしていただいて、資料1を表示してもらいます。それでは財務部長より説明をお願いします。

○立花財務部長　それでは、財務部長の立花です。着座にて説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

ただ今お開きいただきましたPDFファイル2、資料1です。上部にページ数を用意してございます。1/42となっております。42ページ分の1ということで、そのページで説明させていただきます。

それでは、新型コロナウイルス感染症に切れ目なく対応するために一体的に執行します令和3年度当初予算（案）と、それから令和2年度2月補正予算の両方の事業の中から内容を御説明いたします。まず、2/42を御覧ください。2ページは目次となっております。左側にページ数がありますが、5から42が個別の事業です。事務事業名欄に「(2月補正予算)」と表示されたものが7事業あります。そのほかは令和3年度当初予算計上事業で33事業あります。後ほど主な事業について説明をさせていただきます。

それでは次に3ページをお開きください。令和3年度当初予算の一般会計総額。これは前年度と比べまして、200億円増。10.0%の増になります。2,209億円となりました。これは先ほど市長の挨拶にもありました大型プロジェクトの進捗によるものでございますが、主な内容については次の4ページで説明させていただきます。4ページ中ほどに「3歳出〔一般会計〕」とあります。衛生費に新館清掃工場の建設や新保健所の整備負担金、土木費に八王子駅南口集いの拠点整備、教育費に給食センター整備など、投資的事業が大きく進んでおり、それに伴う増でございます。

また、同じ4ページの上段に「2歳入〔一般会計〕」があります。この歳入の市税収入では前年度に比べ58億円減となっておりますが、市債の借り入れや基金の取り崩しによりまして財源を確保しているところでございます。予算編成の過程におきましては、9月の編成方針で厳しい税収減の見通しを示し、全所管において実施手法をゼロベースで組み立てることを方針としてスタートいたしました。11月に国や東京都から交付

金など財源補填の見込みが明らかになりましたので、11月に追加で新規充実事業の予算要求を求め、その結果となっております。その結果、歳出では教育費が前年度に比べて3.2%増の213億2,580万円を計上することができました。

それでは教育・子育てに関する新規充実事業の主なものについて説明いたします。まず、5ページを御覧ください。「情報教育の基盤整備について」でございます。本年度はGIGAスクール構想に基づきまして、児童・生徒1人に1台ずつ配備したパソコンを効果的に活用して授業を行うため、学校ICT支援員を増員するとともに、いつでも操作方法の問い合わせができるよう、チャットボットを導入いたします。

また、6ページを御覧ください。「国際理解教育の推進」では、動画や音声を用いた英語教育を実施するため、指導者用デジタル教科書を導入いたします。また、7ページの「就学援助」でございますが、オンライン授業や家庭学習の実施に必要な通信料の負担軽減を図る経費を計上してございます。ここまでのGIGAスクール関連の新規充実事業でございます。

次の8ページから10ページにわたりまして、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組です。右上欄外に2月補正と表示しておりますとおり、令和2年度2月補正予算に計上しまして、これをそのまま令和3年度に繰り越して実施する事業でございます。学校で使用する物品の購入やオンライン学習向けの研修のほか、在宅時間の増加した子育て世帯を対象とするエアコンの購入費の補助といった事業を計上してございます。

そのエアコン購入費の補助事業につきましては、9ページに載っている分が子育て世帯への加算金2万円、10ページがその基本補助部分となり、子育て世帯へは併せて最大4万円の補助を行うという取組になっています。

次に11ページから17ページにわたりまして、学校施設の整備関連の事業を載せています。まず、11ページから13ページの学校施設の営繕工事につきましては、老朽化したトイレ改修や屋上外壁改修工事を集中的に進めるために補正予算と当初予算を併せて23億円の事業費を計上しています。11ページが令和3年度の当初予算で、12、13ページが2月の補正であり、前倒しで国費を受けて事業実施をするものでございます。

また、14ページにお進みいただきますと、「給食センターの整備」事業となっております。3施設目の給食センターを元横山に整備を完了しまして、これまで配食しています11校に加え、5校の中学校に温かい給食を届けることとなります。残りのセンター整備につきましても計画的に進めてまいります。

次に少し飛びまして、18ページへお進みください。「八王子駅南口集いの拠点整備」です。これは八王子駅南口の八王子医療刑務所跡地に公園、ミュージアム、ライブラリー、

交流スペースが一体となりました集いの拠点を整備するものでございます。また、19ページと20ページには都内で唯一となります日本遺産に認定されたストーリーを市内外に発信する事業を掲載しています。

次に21ページを御覧ください。「地域づくり推進事業」でございます。中学校区を基礎単位とした各地域において、課題解決のために協働していく仕組みを構築するもので、令和3年度のモデル地区の長房と川口の中学校区におきまして地域別推進計画を策定してまいります。

次に22ページを御覧ください。「長期ビジョンの策定」でございます。地域づくり推進事業と合同で中学校区別のワークショップを開催します。

次に23ページから25ページにつきましては、これまでの教育の取組を継続した事業を掲載しております。

次に26ページにつきましては、子どもたちに安全な場所を提供する事業で実施校の拡大を予定しております。

また、27ページに関連する学童保育所事業を載せております。こちらでは2施設を新たに設置することにしております。

お進みいただいて、28ページからは生涯学習スポーツ部の継続事業です。29ページには甲の原体育館の大規模改修を2か年かけて実施するという内容の事業を計上しています。

進んでいただいて31ページを御覧ください。31ページからは子育て支援関連事業となっています。

お進みいただいて、34、35ページは「地域子ども・子育て支援」でございます。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、里帰り出産ができなくなった妊産婦の方への支援や、虐待リスクが高まった児童への見守り体制を強化することとしています。併せて36ページを御覧ください。「乳児家庭支援金給付事業」を計上しています。不安を抱えながら出産と育児を行っている1歳未満のお子さまを養育する家庭への支援を行うこととしています。

さらに先へ進んでいただいて、40ページは「若者問題対策」でございます。悩みを抱えた若者が気軽に相談できる若者総合相談窓口の運営を継続することとしています。

最後になりますが、41、42ページは生活困窮者支援の取組でございます。41ページの「生活困窮者への緊急食品支援」では、市内外から寄せられた新型コロナウイルス感染症対策支援寄付金を活用して、フードバンク団体に食品購入費を補助することで、生活に困窮されている市民の皆様を支援してまいります。以上です。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からこれらの課題について御意見を頂戴したいと思います。初めに、柴田委員、よろしくお願いいたします。

○柴田委員　皆様、こんにちは。御説明いただきまして、ありがとうございました。

令和3年度の教育予算につきまして、三点ほどお話をさせていただきたいと思います。まず一点目が学校施設の営繕工事に関わる経費につきまして、23億円を計上してもらいまして、ありがとうございました。子どもにとっても学校生活は日常生活であって、教育環境というものは非常に大切だと思います。特にトイレの改修工事が着々と進められている点がありがたいと思います。現場の声を聞きますと、トイレはやっぱり感染対策と、それから衛生対策をしっかりやっていただきたい。今の児童や生徒は洋式のトイレに慣れた子どもがほとんどで、清潔なトイレでないとトイレに行くのを一日中我慢しているというお子さんがおり、それから、夏場にはトイレに行かなくても済むように保護者が水筒を持たせても水分補給を控えてしまうお子さんであるとか、換気のために窓を開けたときに網戸がないと虫が入ってきて、虫がいるトイレに行きたくないとか、そういった声を保護者から聞くことがあります。ますます全校、そして全学年のトイレ改修が進みますよう、お願いします。

二点目は新規事業の日本遺産の活用・発信と、それから充実事業の南口の集いの拠点整備に関わることについてです。この新規予算の中では日本遺産のボランティアガイドの育成、研修をしようというものもあります。これは市民の生涯学習と、それから地域づくりとを一体化した成果をボランティアガイドとして地域に還元するというような事業です。ぜひ観光に八王子市に訪れた方だけでなく、子どもたちにその学習の成果を還元していくような仕組みを作って、この予算を有効に使っていくことが大切ではないかと考えます。

例えば今日、午前中の教育委員会の定例会で令和3年度の教育課程編成につきまして議論をしたところですが、令和3年度の教育課程編成の方針の1つに郷土学習の計画的な取組というものがございます。この中で八王子市の地域の特性を生かして日本遺産のどこを取り上げるかという、市として画一的なものではなくて、学校ごとに、その地域性を大事にした学習素材も取り入れるという考えに基づいて、その地域に住む生涯学習ボランティアの方たちのゲスト講師としての役割が期待されるのではないかと思います。そうすることで子どもと市民、それから教職員の学びあいというものが進み、学習指導要領で主要な課題として設定されています「主体的・対話的で深い学び」の実践というものの学習素材になり得ると思っています。

調べ学習やその成果を地域や、地域にいる子どもたちと市民の方向けに発信するということも考えられるのではないかと思います。

それから三点目につきましては、学校運営協議会が全校に設置されて1年経ったところでございますが、学校企画経費についてはぜひ今後も継続していただきたいと思えます。学校を核とした地域づくりを学校の火急の問題として保護者や市民と一体となって取り組んでいくような学校企画経費というものは欠かせないと思えますので、継続していただいて、今後も学校を核とした地域づくりが進むように御配慮いただきたいと思えます。

以上です。

○植原総合経営部長 ありがとうございます。

続きまして、伊東委員、よろしく願いいたします。

○伊東委員 令和3年度当初予算につきまして、まず、一般会計歳出に占める割合において、民生費、衛生費に次ぐ9.7%、前年度比3.2%増の213億円という大変多額の予算を計上してもらいましたことに心より感謝申し上げます。

私はGIGAスクール構想につきまして少しお話をさせていただければと思えます。このGIGAスクール構想を着実に推進するために、来年度につきましては情報教育の基盤整備やオンライン活用授業に関わる新規事業に8億2,000万円というこれもまた巨額の予算をつけていただきまして、改めまして1人1台のパソコンを有効に活用した授業改善と個別最適化された学習に向けた取組を、令和のこの新時代における学校のあるべき姿として、本市の公立学校において推進していかなければならないということを感じているところでございます。

このことにつきまして、既に皆様はご存じかと思えますが、本年1月26日に中央教育審議会より『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」という答申が出されました。そこではまず、これまでの日本の学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童・生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで子どもたちの知・徳・体を一体で取り組むという日本型学校教育が諸外国から高く評価を得ているということが示されています。

もう1つは、こうした制度を踏まえて現時点で学校教育が直面している複雑化、多様化している課題を解決していくために、学校における働き方改革の推進や、GIGAスクール構想の実現。そして、新学習指導要領の確実な実施など、必要な改革を躊躇なく進めることが重要であり、従来の日本型学校教育をさらに発展させ、令和の日本型学校教育を実現することを目指すものであります。このことが答申では示されております。

突き詰めて申しあげれば、この令和の日本型学校教育を構築していくためには、ICTの活用というものが不可欠であって、ICTを活用した学校教育の質の向上ですとか、あるいは教師の質の向上。こういったものがこれからの学校の課題となってくると考えております。この3月までに全校に導入される予定のタブレット型パソコンで、実際のデモンストレーションをやっていただきました。実際に触らせていただきまして、子どもになったつもりでパソコンを操作させていただきました。大変短い時間の中ではございましたけれども、いろいろな機能を紹介してもらいました。そういった体験の中でICTの利便性ですとか教育効果の大きさというものを体感することができまして、今後の学校教育が大きく変わっていくことの手応えというものを感じたところでございます。

一方で今後こうしたGIGAスクール構想の推進と併せて、実は小学校の高学年における教科担任制の問題ですとか、小学校の35人学級の実現、こういったことが行われていくようになります。これら全てに関わることとして、教員の資質・能力を向上させ、こういった新しい課題に対応させていくことが重要だと考えています。今後は、せっかく導入していただきました端末を有効に活用できるように教育委員会としても皆様と一緒に議論を深めて、この問題の解決を図っていきたいところでございます。

私からは以上でございます。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

続きまして、川島委員、よろしく願いいたします。

○川島委員　御説明ありがとうございます。昨年来、税収が厳しいという話を聞いておりました中で、非常に感謝しております。

その中で私も何点か申しあげたいと思います。伊東委員からもありましたけれども、情報教育の予算をいただきました。この1年間準備してまいりまして、各児童・生徒への端末が今年度中に配布する目処が立っております。いよいよ来年度はこれを持続化に向けて進めていく大きな節目の年となります。本当に学校や教育委員会が準備を進めていましたけれども、導入の時期は現場の戸惑いというのはかなり大きなものだったと思います。その中でICTの支援員の増員はもちろんなのですが、いつでも問い合わせができるように24時間対応を進め、チャットボット導入は本当に現場にとって心強いものになるかと思えます。

コロナ禍のこの現状の中では、タブレットというのは万が一のためのオンライン授業への期待が大きいかと思いますけれども、ワクチン接種等が進んでいきまして、通常授業に移行していくにあたり、ポストコロナということを考えますと、今後児童・生徒一人ひとりに合った学習の実現が期待できます。学びの形態が大きな変化をするのではないかと

と考えております。このところにも引き続き予算をいただければと思っております。

もう一点は就学援助ですとか、子育て支援。例えば「地域子ども・子育て支援」。各種支援に対して予算をつけていただいていることを、まず感謝いたします。おそらくこの1年間は100年後、200年後、歴史の教科書に載るような大きな1年だったと思います。それぞれの保護者の中でも、予想しない経済的な困難が訪れた御家庭もあろうかと思えます。その中での増額というものは行政がしっかりとそういう方たちも見ていると、置き去りにしない、というところの意思表示でもありますので、その部分は大変心強く感じるものだと思います。引き続き支援していただくよう、よろしく願いいたします。

あと、先ほどの説明でもございましたけれども、コロナ禍の出産という方が里帰りをせずに不安に思っている方もございますので、その部分もしっかりと支援していただきたいと思えます。この制度、なかなか知らない方もあるかと思えますので、十分な周知、案内をしていただいて、安心してこの制度を利用できる体制を構築してもらいたいと思えます。「子育てしやすいまち 八王子」を目指して頑張っていきたいと思えます。

また、将来を見据えてというところでは、今年度地域づくりや長期ビジョンの観点から長房地区と川口地区で20年後を見据えたまちづくり意見交換会が始まるという話を聞いています。この部分にもだいたい予算をいただいています。将来へ向けての投資というのは必ず良いことにつながるかと思えますので、今の子どもたちが将来に希望を持てるようなまちづくりの施策を進めていただきたいと思えます。

最後になりますけれども、日本遺産の活用・発信のところでは、今の御時世ではなかなか明るい話題がない状況ですが、文化的な側面を進めるのはなかなか民間企業では難しいところがあります。ここはしっかりと行政の責任において進めていきたいと思っております。せっかく都内唯一の日本遺産認定となりましたので、八王子の魅力を児童・生徒にしっかりと伝えて、八王子の誇りを持って育っていただきたいと思いますと思っております。

私からは以上です。

○植原総合経営部長 ありがとうございます。

それでは、教育長、よろしく願いいたします。

○安間教育長 まず、令和3年度予算については税収入が大きく減となる中でありながら前年度より6億5,400万円を増額し、教育に関する予算をしっかりと確保してもらったことに本当に感謝を申し上げます。

これを受けまして令和3年度、新型コロナウイルス感染症対策というものがどこまでの対策になるのかは想像がつきませんが、改めて今回の税収が減収であっても、教育に関する予算を前年度比3.2%増としていただいたという意味を考え直しております。新た

な日常を構築していくという意味で非常に重要な1年なのだろうとっております。

子どもたちの教育は、あれもやったほうが良い、これもやったほうが良いと、やろうと思えばいくらでもありますけれども、何を重点において、何に主眼をおいて、どこに力を入れて子どもたちに注力していくのか。そういうことを見直すために、今回はすごく良い機会になったのではないかと思います。例えば、学習コンピューターです。GIGAスクール構想についても、おかげさまで、本市の場合は今月末には全ての子どもたちに端末をお渡しできるようスピードを上げてやっております。常々教育委員会で私が申しあげているのですが、これは学校で教師が子どもたちの指導のためだけに使うのではもったいない。子どもたちに1台持たせるということは、市と子どもたちへの直接のツールになり得る、もちろん教育指導などをメインで使うわけですが、八王子市として子どもに何かを訴えかけるためのツールとしても使え、その周辺には保護者がいるわけですから、そういった使い方というものもあり得るのではないかと思います。ぜひ考えていきたいと思っております。

また、さらに学校の施設は老朽化するの当たり前ですから、では、どこに重点を入れるかという、今回の補正予算のようにトイレであると、私も思います。また、学校は避難所としての役割がありますので、では、それをどうするのか。そこも問われている。また、都内唯一となる日本遺産。これは重点課題だろうなと思っております。さらには地域づくり推進事業として学校施設の再編。こういったものもやはり全力を掲げていく。そのような予算ではないかなと思っております。

もちろん並行して教員の働き方改革という視点もしっかりと持ちながら、いかに効率的にこれをやっていくのか。要は新しい八王子の教育行政のスタートの年であると思っております、本当に身の引き締まる思いでいるところであります。

第3次八王子市教育振興基本計画に掲げた施策をこれからも教育委員会一同、一歩一歩着実に取り組んでまいり所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

市長、いかがでしょうか。

○石森市長　はい。それぞれ教育委員の皆様からこの令和3年度の予算案につきまして、貴重な御意見をいただき、感謝申し上げます。

令和3年度予算案につきましては、冒頭触れましたように、2月補正予算案と一体的な執行をしていくことで切れ目なく新型コロナウイルス感染症対策やコロナ禍から新生活や地域経済を守ることを最優先に取り組むこととし、また、八王子ビジョン2022も間もなく完了する、そのような時期にありますので、総仕上げとなる2年間を見通したものと

なっております。コロナ禍にありましても、教育・子育て関連については、主要プロジェクト等停滞させることなく前進させて、未来へつなぐ2か年の1年目としての必要な予算をしっかりと確保したことでございます。

また、本日の御意見を参考にさせていただき、引き続き市長部局と教育委員会との連携を密にしながら施策を推進してまいりたいと思いますので、引き続き教育委員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

○植原総合経営部長 ありがとうございます。

では、次の議題に移らせていただきます。

協議事項の2、「幼児教育・保育センターの設置について」です。タブレット画面の上部の資料2、こちらになります。それでは、子ども家庭部長より説明をお願いいたします。

○小俣子ども家庭部長 子ども家庭部長の小俣です。着座して御説明させていただきます。よろしくをお願いいたします。本日参考資料としてスライドの後に2ページ資料を追加させていただいております。よろしくをお願いいたします。

八王子市幼児教育・保育センターにつきましては、令和元年度の第3回総合教育会議におきまして協議しております。新型コロナウイルス感染症の影響で日程等が遅れましたが、ここで開設いたしましたので、教育委員会と連携する主な取組を中心に御説明させていただきます。

それではページをめくっていただきまして、1の概要でございます。名称は「八王子市幼児教育・保育センター」でございます。設置予定日になってはいますが、設置日の間違いでございます。設置日、令和3年2月15日曜日に開設しております。設置場所につきましては、子ども家庭部の子どものしあわせ課内でございます。改めまして設置目的を説明させていただきます。幼児期における教育・保育の重要性の高まりを踏まえまして、保・幼・小連携の推進、特別な配慮を必要とする子どもへの指導の充実、研修の機会・内容の拡充。それから、関係機関との連携強化など。また、複数の施設類型、私立、民間施設が多いという状況におきまして、公私の、それら施設類型を一体的に教育・保育の実践の質の向上を図ることを目的としているものでございます。

めくっていただきまして、次の事業内容でございます。事業内容につきましては、機能が4つございます。まず、1番は「研修機能」です。2として「支援機能」。それから、「情報収集発信機能」、最後に「連携機能」でございます。センターにおきましては現場での状況を確認しながら調査・研究を通して取組を進めていくということでございます。

主な取組としまして、表の右側、「センターとしての新たな取組」を中心に説明させていただきます。

まず、「研修機能」でございますが、研修を一括管理いたします。これは今まで子ども家庭部内の中でも課によってそれぞれ研修を行っていたのですが、それを一括管理しまして、職種、年代別、スキルなどを考慮した研修体系を整備して教育委員会との一体的な保・幼・小連携の講演会なども実施していきたいと考えております。大学との連携も行ってまいります。

次の行になります。他園の教育・保育に触れる機会を作るために公開保育を実施したいと考えています。すでに公立保育園では実施済みでございます。

2つ目の「支援機能」でございます。これは発達障害児に関する各園保育士と施設への支援について現状行っているところです。これにつきましては私立保育園においても保護者面談を拡充していきたいと思っております。なお現在、幼稚園、それから公立保育園については既に実施しています。

それから、センターの核となる取組でございますが、幼児教育・保育アドバイザー2名による幼児教育・保育の実践的な園への巡回支援をしていきます。これは相談対応、カンファレンス、園内の研修等に助言、指導してまいります。ただ、それには実態の把握に努めるということと、各園において幼児教育・保育を中心的に推進する者として、ミドルリーダーを育成していきたいということがあります。

3つ目、「情報収集発信機能」でございますが、すでに公立保育園では保育の質のガイドラインを策定しております。これを基に本市の全ての施設を対象としたガイドラインを策定してまいりたいと思っております。そのほかには、ポストコロナと言いますか、新型コロナウイルス感染症に対応した新たな視点を付加していきたいと考えております。

それから、現在は保育園協会や幼稚園協会という事業者との定期的な会議を行っておりますが、今後につきましては、保護者に対しても幼児保育に関する情報発信、講演会などを行ってまいりたいと考えております。

4つ目、「連携機能」でございます。既に、保・幼・小連携を推進しておりますが、小学校への円滑な接続を目的としまして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保・幼・小の職員間で共有し、学校見学や交流の充実を図ってまいりたいと思っております。

それから、認定こども園における教育内容につきましては教育委員会の助言をいただければということで、連携を強化してまいりたいと考えております。

次のページでございます。特に右側の「センターとしての新たな取組」について、教育委員会との連携内容を、この表の右側の「連携の内容」を中心に説明させていただきます。

1つ目の「研修機能」につきましては、保・幼・小子育て連絡協議会主催の研修会を通じまして、幼児教育・保育の重要性や接続期の課題等を共有するために教育委員会と、そ

の内容や講師の選定等について連携を取りながら充実を図っていきたいと考えております。

2つ目の「支援機能」でございます。就学支援シート、「はちおうじっ子マイファイル」の活用を更に推進し、特別な支援を必要とする園児の就学に際する切れ目ない支援になるようにしたいと考えております。

3つ目の「情報収集発信機能」でございます。八王子市における幼児教育・保育の理念・方針・目的等について教育委員会と協議をさせていただきまして、新たな「八王子市幼児教育・保育の質ガイドライン」を策定したいと考えています。

それから、保護者向けでございますが、幼児教育・保育の重要性について、市のホームページ等を媒体に情報発信、啓発、そして家庭教育として市が作成しました、はちおうじの「いえいく」の取組につなげていきたいと考えています。

4つ目の「連携機能」でございます。各小学校におけるスタートカリキュラム作成に際し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を核とし、幼児教育・保育施設と情報共有を行うなど、より一層、就学へのスムーズな移行を目指していきたいと考えています。

それから、今後の公立保育園における認定こども園化を見据えまして、学校としての幼児教育・保育の内容について助言と検討会への参加をいただければと思っております。この4月からですが、認定こども園が7園から11園となり、4園の移行となります。今までも実施しておりますが、認定こども園の代表者との意見交換会やコロナ禍以降での参加を引き続きお願いできたらと思っております。これにつきましては、3か年の実施計画を策定する中で公立保育園のあり方や認定こども園化からセンターの体制強化などを検討してまいりたいと思います。

次のページです。執行体制でございます。子どものしあわせ課の中にセンターとして事務局2名、幼児教育・保育アドバイザー2名。これは公立保育園の園長と、元小学校校長先生等にもお願いするということです。それから、巡回発達相談支援員が7名です。これは3名が臨床心理士と公認心理士でございます。残り4名が保育園園長の経験者を配置しています。

本市の5歳児の98%が幼稚園・保育園等に在籍しております。就学児童数のうち、1.5%が私立進学ということですので、ほとんどの児童が本市の幼児教育・保育施設から公立小学校へ進学する状況でございます。ここで幼児教育・保育の専門的な担当ができましたので、教育委員会とさらなる連携をお願いしたいと存じます。

次のページは参考の資料でございます。これがコロナ禍による影響の事例でございます。左側が寝る位置です。頭の位置を交互にして寝る。それから右側につきましては、マ

スクでは表情が子どもに伝わりにくいということで、フェイスシールドを着用している例であります。このようなことをガイドラインに追加していきたいと考えております。

最後は追加した資料でございます。これは文部科学省の補助事業でございます。事業計画を提出いたしまして文部科学省に採択されました。令和3年度は申請中でございます。

次のページでございます。令和2年度の採択団体として30番に八王子市がございまして。東京都では初ということですので、ますます幼児教育の推進を図っていききたいと考えています。

説明は以上でございます。

○植原総合経営部長　ありがとうございます。

それでは本施策に対して御意見をこの中から頂戴したいと思います。初めに川島委員、よろしくをお願いします。

○川島委員　御説明、ありがとうございます。幼児教育・保育センター設立、本当にありがとうございます。

御承知のように、小学校1年生や中1ギャップ、そのお子さんにとって非常に大きな問題となっております。特に保・幼・小連携強化につきましては、かねてより保護者の方から強い要望の声がありました。中1ギャップにつきましては、本市は小中学校の連携等も進んでおりますけれども、保育園、幼稚園に関してはなかなか地域によって差があるとか、学校によって差があるというか、上手にいつているところと、いつていないところがあったという話を聞いたことがあります。また、保・幼・小連携におきましては、まだ小さいですので、学年単位で考えるにとどまらず、月齢単位で考えなきゃいけない場面もあろうかと思えます。特に保育園と幼稚園に関しては保育の方針ですとか、幼稚園の教育の方針ですとか、それぞれ園独自の方針もありますので、それが小学校に上がったときに決まった形で、皆様と同じような規律の中で生活するのに少し戸惑いを感じる場面も少なからずあるという話も聞いています。

1番の目的としましては、スムーズな保・幼・小の連携だと、スムーズな接続だと思っていますので、この接続期への課題等の共有化というのは非常に大切だと思います。今回このセンターが設立したことにおきまして、研修などが一括管理されると。また、支援が必要なお子さんへの認識が共有化されるなどという話があります。センターを通じて、より連携が強固になって、それぞれのお子さんが今まで以上にスムーズに学校生活に入っていけることが期待できると思います。

また、保護者として私から次の三点をお話させていただきたいと思えます。保育園・幼稚園と保護者の方との信頼関係の構築をさらに進めていけるような講習や先生方に講演

をしてもらいたいと思います。八王子では「はちおうじっ子マイファイル」を活用しています。現在の生活の中では個性という言葉が非常に大きくなっておりまして、意外にその言葉に埋もれてしまって、先生方のお子さんに対する認識と保護者の自分のお子さんに対する認識に相違がある場面があるとお聞きします。そうすると、先生と保護者の間で信頼関係がなかなかうまくできなくなってしまうことがあります。そのマイファイル自体がうまく活用されない事例もあるという話を聞いたことがあります。ぜひ、先生と保護者の間の信頼関係をこれまで以上に深めることができるような研修や体制を充実したものにしてもらいたいと思っております。

もう一点。これは情報発信のところですが、私はPTA活動をずっとやっておりまして思っていたのですが、なかなか学校に対する協力とか、その方に対する協力を得られない御家庭があるというのは事実です。本年度よりGIGAスクールの端末が各お子さんに配られます。これを自宅に持ち帰ってオンラインになり、個別学習というものが始まってきます。そうなりますと、御家庭での活用方法が非常に重要になってきます。例えばメディアリテラシーとか保護者の方の理解・協力が非常に、これまで以上に必要になる場合が増えてきます。そんな中でいかに学校と関わりを持っていただくかというのは非常に大きな課題だと思います。一般的に保護者の方の学校との関わりは学年が上がるにつれて、保護者会への出席率が低くなることにも現れるように、少しずつ薄くなってしまっているのが現状だと思います。

これは学校に限らず、私は保護者の方が、先生方と話す機会が一番多いのは保育園と幼稚園に入園したときではないかと考えます。

ぜひ、そうした時期から幼児教育の情報だけではなくて、小学校、あまり知り過ぎてもいけないと思いますが、情報を保護者の方にも共有していただいて、小学校へ上がったときも学校と一緒に子どもを育てていける姿勢を持ってもらえるような環境整備にも尽力してもらいたいと思っております。

あと三点目。実際に周りでは保育園に入っているお子さんが多いかと思うのです。例えば小1ギャップというものがあります。これは保育園・幼稚園から小学校というのが想定されていますが、実際には保育園から小学校ではなく、次は学童保育所に行くことが多いのです。そうすると、自分の環境が劇的に変わるというのは保育園から小学校じゃなくて、保育園から学童保育所。このときがすごくインパクトが強いことがあろうかと思えます。ですから、この保・幼・小連携のところに学童保育所の方にも入っていただいて、その情報の共有化をしていただくと、その学童保育所と学校の距離感は近くなると思います。お子さんにとってはスムーズな学校生活のスタートになるのではないかと思います。こ

これらの各機能がうまく回ってくれることを期待して私の話は終わります。

○植原総合経営部長　　ありがとうございます。

それでは、教育長、よろしくお願いいたします。

○安間教育長　　幼児教育の推進体制の充実、活用強化について話を伺いました。切り口が幼児教育ということですから、幼児教育の推進体制、活用強化という位置付けになったのだらうと思います。私ども教育委員会からすると、そもそも学校教育に関して言えば、何が目標なのかというと、学校を卒業した後に自信をもって社会で生きる力をつける、そのことであります。八王子市民としての自覚をもって生きていけるだけの力をつける、そこに決して年齢、学齢の区別はないと思います。

「何某小学校」の「子」ではなくて、八王子市の「子」が今「何某小学校」にいる。そのような考えで進めていかないといけない。本市の学校教育ですすめている、小中一貫教育というのはそういう考えに基づいている。これは、なにも社会人になる教育を早期にやれば良いという事を言っているものではありません。適切な時期に、適切な量の支援をしていく、もしくは、課題を与えていく。それが教育として必要です。キャパシティに余裕がない幼児に色んなことを教え込もうとするのではなく、その時に適した教育というものが、ちゃんとあるわけです。そういう意味で、小学校、中学校などと学校で区切るのではなくて、その前の幼児期の段階で、何をおさえていくべきなのか、それは幼稚園や保育園の教育がうまくいく為というのではなくて、その子が小学校、中学校、そして社会人、この世のなかでしっかりと生きていけるような力をつけるため、今の時期に何をやるべきなのか、これが本当の一貫教育なのではないかと思っています。

ぜひ、がっちりと四つに組んで連携して進めていきたいと思っています。連携という言葉は非常に良い言葉で、連携していきましょうというと、それだけで話が終わったような雰囲気になってしまうのですが、私は、本当の連携というのは、連携すべき人たちが同じ場で、同じ現象を見て、その同じ現象に対してどう対応するのかを実際にやってみる、それぞれ立場が違うわけですから違う実践になるのです。そういうようなことが、私は真の連携だと思いますし、その連携が深まっているということになるのかなと思います。これまでもこういう理想的なことを目指してやってきたのですが、ぜひ、ここで思い切って幼児教育と小学校の学校教育との垣根を取り払って、今わたくしが申しあげたような連携で、子どもに関与して最終的に八王子の子どもたちを、八王子の大人、八王子市民に育てていく、そんなことが出来れば良いなと夢を感じながらお話を聞かせてもらいました。今後とも宜しくお願い致します。

○植原総合経営部長　　ありがとうございます。

市長、いかがでしょうか。

○石森市長 幼児教育・保育センターにつきましては多摩地域では初の設置ということになります。各自治体から注目されている、そのような状態でございます。この取組につきまして、ただ今、教育長と川島委員から貴重な御意見等をいただきました。幼児期の遊びや、生活をとおして身につけていく学びというのはその後の成長過程、人間形成の基盤となるものでございます。このセンターの設置につきましては、八王子版ネウボラから始まりまして、切れ目ない子育ての支援をしていく、子育てしやすいまちナンバーワンを目指すという私の公約の1つでございまして、重点施策の1つとなっております。この取組を充実させ、子どもたちには安全で安心できる環境の下、のびのびと健やかに成長してほしいと願っております。教育委員の皆様にはこれまでの連携の下に幼児教育・保育の実践的な質の向上をより一層推進していけるよう、御協力をお願いします。

○植原総合経営部長 ありがとうございます。

それでは、次に移ります。報告事項の1、「郷土資料館仮展示場について」でございます。資料3になります。それでは生涯学習スポーツ部長より報告をお願いいたします。

○音村生涯学習スポーツ部長 生涯学習スポーツ部長の音村でございます。着座で失礼します。それでは、桑都日本遺産センター八王子博物館の開館に向けた進捗状況について御説明いたします。

昨年、令和2年6月、日本遺産「霊気満山 高尾山 人々の祈りが紡ぐ桑都物語」のストーリーが文化庁から認定を受けました。これに伴いまして日本遺産の情報発信拠点として整備してきました、桑都日本遺産センター八王子博物館。これは八王子市郷土資料館仮展示場の機能もございしますが、現在の進捗状況について御報告するものでございます。

今、郷土資料館の仮展示場としての機能もあると御説明しましたが、上野町にあります郷土資料館は昭和41年建築です。すでに半世紀以上がたったものでございます。バリアフリーですとかユニバーサルデザインなど未対応の建物となっております。耐震化も進んでいないことから、郷土資料館の八王子駅南口集いの拠点への移転を見据えた中で、この郷土資料館の展示機能を仮移転できないか、ということが今回施設の開館のきっかけでございました。そういった状況下で今回日本遺産の認定を受け、日本遺産センターの整備が急がれたという事情がございます。

それでは2ページ目のスライドを御覧ください。桑都日本遺産センター八王子博物館の設置場所でございます。JR八王子駅南口子安町四丁目のサザンスカイタワー八王子3階の商業テナント区画になります。面積は348.12㎡となります。

スライド3枚目です。展示のコンセプトとしましては、桑都・八王子の歴史と文化に出

会える場所として日本遺産のストーリーの紹介。それから、令和8年度を予定しております、八王子駅南口集いの拠点に整備する歴史・郷土ミュージアムへの期待感を醸成する場所としております。

展示ストーリーは導入ゾーン、テーマ展示ゾーン、企画展示ゾーン、体験・交流ゾーンの4つに分け、来場者に分かりやすく紹介していきたいと考えております。

スライド4ページ目です。桑都日本遺産センター八王子博物館のイメージ、施設の状況になります。図の右下にあります矢印、「コンコース」という赤い矢印からこの施設に来場するようになります。来場者にはこの施設に興味を引くように施設を仕切る壁に八王子の歴史・文化に関するイラストを描きます。さらに、プロジェクション・マッピングで魅力を引き立てるようにいたします。入り口の導入ゾーンの壁には1分程度のテンポのよい導入映像を3種類、日本遺産編、八王子の歴史・文化編、八王子の四季編を上映いたします。

スライド5ページ目です。施設内の展示物のイメージになります。施設内には約20基のストーリー仕器を配置いたします。仕器の表面はイラストで親しみやすい、問い掛け式のものといたします。小窓もあり、中が少しだけ見える仕掛けになっております。また、表面にはスライドにもあります「なぜ八王子は桑都と呼ばれたの?」といった問い掛けがあります。そして、仕器の裏面に回ると、表面の問い掛けの答えがあります。施設の中央の企画展示ゾーンでは現在郷土資料館で行っている企画展示を行ってまいります。図の右上の位置にはテーマ展示ゾーンを配置します。また、図の右下の位置には交流ゾーンを配置し、例えば「車人形」などを実際に演じてみるなどの体験ができることになっていきます。

最後、スライド6枚目になります。桑都日本遺産センター八王子博物館のオープン日です。令和3年4月29日といたします。当日は桑都日本遺産センター八王子博物館のオープンに併せ、コロナ禍ではございますが、サザンスカイタワー八王子の東側広場でオープニングセレモニー、イベントなどを予定しております。

次に開館日、開館時間です。商業テナントビルに入居いたしますことから、午前10時から午後7時までといたします。年末年始、館内整備期間を除き開館いたします。また、小・中学生の社会科見学については、開館日、時間などを優先して割り当て、一般入場者と重ならないようにしていきたいと考えています。

報告は以上になります。

○植原総合経営部長 報告ありがとうございました。御質問など何かございますか。よろしいですか。

それでは本日予定しておりました議題は以上となります。

次回の総合教育会議は、令和3年6月2日水曜日、午後1時30分からを予定しております。詳細は、また後ほどお知らせいたします。

それでは、以上をもちまして本日の総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。

【午後3時10分閉会】